

めぐみイエス・キリスト教会

2024年12月1日(日)アドベント第一主日礼拝
午前10時より
週報「通算第734号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌82「牧人 羊を」 p. 112

【交読文】 No.49 イザヤ書40章(抜粋) p. 918

【賛美Ⅱ】 新聖歌99「馬槽の中に」 p. 139

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「天より来られし」

【聖書朗読】 ルカの福音書7章36節～39節(新約p. 125下段)

【礼拝説教】 《パリサイ人の家にて》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄与」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書7章36節～39節)

7:36 さて、あるパリサイ人が一緒に食事をしたいとイエスを招いたので、イエスはそのパリサイ人の家に入って食卓に着かれた。

7:37 すると見よ。その町に一人の罪深い女がいて、イエスがパリサイ人の家で食卓に着いておられることを知り、香油の入った石膏の壺を持って来た。

7:38 そしてうしろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらイエスの足を涙でぬらし始め、髪の毛でぬぐい、その足に口づけして香油を塗った。

7:39 イエスを招いたパリサイ人はこれを見て、「この人がもし預言者だったら、自分にさわっている女がだれで、どんな女であるか知っているはずだ。この女は罪深いのだから」と心の中で思っていた。

●ポイント1. 「マタイとマルコに書き記された異なる記事」とは？

※マタイの福音書26章6節～13節「ベタニアにて」 (新約p.55)

26:6 さて、イエスがベタニアで、ツアラアトに冒された人シモンのお家におられると、

26:7 ある女の人が、非常に高価な香油の入った小さな壺を持って、みもとにやって来た。そして、食卓に着いておられたイエスの頭に香油を注いだ。

26:8 弟子たちはこれを見て、憤慨して言った。「何のために、こんな無駄なことをするのか。

26:9 この香油なら高く売れて、貧しい人たちに施しができたのに。」

26:10 イエスはこれを知って彼らに言われた。「なぜこの人を困らせるのですか。私に良いことをしてくれました。

26:11 貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいます。しかし、私はいつも一緒にいるわけではありません。

26:12 この人はこの香油を私のからだに注いで、私を埋葬する備えをしてくれたのです。

26:13 まことに、あなたがたに言います。世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられるところでは、この人がしたことも、この人の記念として語られます。」

●ポイント2. 「主イエス様」とは？

※ヨハネの福音書1章14節「使徒ヨハネの証しから」 (新約p.175)

1:14 言葉は人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

◎先週のメッセージ【すべての知恵の子らとは？】

《取税人たちも、ヨハネからバプテスマを受けたのです。ところが、パリサイ人たちや律法の専門家たちは、ヨハネからバプテスマを受けず、自分たちに対する神のみ心を拒みました。

しかし、マタイの福音書には、ヨハネの働きの初期段階には、大勢のパリサイ人やサドカイ人が、バプテスマを受けに来たことが書き記されています。ところが、ヨハネは彼らを厳しく叱責したのです。怒りに満ちた彼らは、悔い改めることなく、バプテスマを拒否したのです。「それでは、この時代の人々を何にたとえたらよいでしょうか。彼らは何に似ているでしょうか。広場に座り、互いに呼びかけながら、こう言っている子どもたちに似ています。『笛を吹いてあげたのに、君たちは踊らなかつた。弔いの歌を歌ってあげたのに、泣かなかつた。』と。

これは、当時子どもたちが広場で遊んだ遊びを表わしています。つまり、結婚式ごっこと葬式ごっこのことです。子どもたちが一緒に遊ぶ仲間を集っても、誰も集まらなかつたという「たとえ」なのです。

また彼らは、ねたみからバプテスマのヨハネのことを、『あれは悪霊につかわれている』と言い、また主イエスのことを、『見ろ、大食いの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ』と、言っていたのです。

主イエスは、「しかし、知恵が正しいことは、すべての知恵の子らが証明します。」と言われました。

「知恵」とは、ソロモンの箴言に、109回も登場する言葉です。つまり、主イエスご自身こそが、ソロモンが箴言に書き記した「知恵」と同じ存在であるということです。箴言のテーマは、「主を畏れること、神様を見い出すこと」です。そして「知恵の子ら」とは、「知恵」を見い出した者たちのことです。すなわち、救い主、主イエス・キリストを見い出し、出会えた私たちこそが、「すべての知恵の子ら」なのです。》

◎お知らせ

※12月8日のアドベント第二主日礼拝は、午前10時から。また、クリスマス礼拝は、12月22日(日)に行ないませんが、愛餐会はありません。